

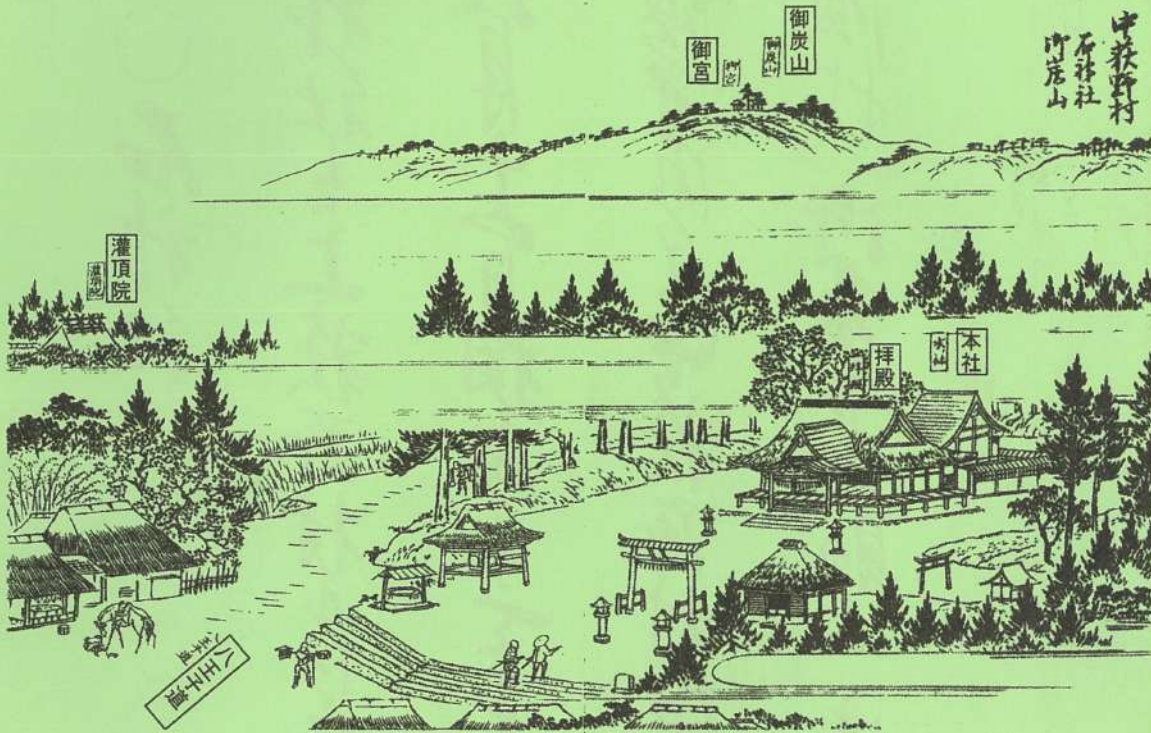
古文書を読もう

第34号
令和7年9月

古文書で知る郷土の歴史

古文書で知る郷土の歴史（十六）

『相中留恩記略』⑨



絵図…国立公文書館所蔵版の絵図を加工

今回は中荻野村です。東は下荻野村、西は上荻野村、南は飯山村、北は棚沢村に接しています。

絵図右上に村名と石神社（現・荻野神社。上荻野村にあり）・御炭山と書かれ、中央には石神社の本社（本殿）・拝殿、左の八王子道を挟んで灌頂院、後方には御炭山と御宮（東照宮）が描かれています。

石神社は石神大明神社とも称し、「石が空から飛んできた」「石が成長する」という言い伝えのある自然石を御神体としています。上・中・下荻野三村の鎮守でした。貞享四年（一六八七）に造立された本社は一間社流造という建築様式で市内では最も古くかつ最大規模であり、拝殿とともに県指定重要文化財になっています。

灌頂院は十一面観音を本尊とする石神社の別当寺で、開山は恵源（弘安四年（一二八二）卒）、中興開山は恵空（慶安四年（一六五二）卒）、慶安二年（一六四九）に境内大日堂領に五石一斗の御朱印を賜わった古刹ですが明治初年に廃寺になりました。

御炭山は中荻野・下荻野両村で御茶事に用いられる炭を焼き、幕府に上納していたのでこの名で呼ばれていました。御宮は山中に石祠として祀られていましたが、今はその跡を見つけることができません。

左下に八王子道と書かれている道は作者の勘違いからか明らかに甲州道の誤りです。

一間社流造…神社建築様式の一つで、切妻屋根の正面が長く伸び曲線を描いて前にせり出しているのが流造の特徴です。本殿正面の柱と柱の間を柱間といい、柱間が一つであるものを一間社といいます。

厚木市古文書解読会

あつぎ郷土博物館に収蔵されている古文書の解読に取り組んでいます。興味のある方は第2、第3、第4木曜日に活動していますのでお問い合わせください。

あつぎ郷土博物館 TEL 046-225-2515



將軍家茂の上洛と戸室村

江戸末期、幕藩体制を揺るがす動乱の最中、將軍家茂は公武合体を推進し、朝廷との協力関係を強化するため、皇女和宮が降嫁した翌年の文久三年（一八六三）二月、朝廷の要請により上洛する。將軍の上洛は家光以来二百二十九年ぶりで約三千人が随行したという。その中に、厚木の戸室村名主霜島久右衛門の子息久太郎が加わっていたことは、当地厚木の人々にもあまり知られていない。戸室村の領主興津健之助（旗本二千三十五石）は、小納戸という役職にあったので上洛の際、弟の船越錦三郎と若殿の興津孝治郎をその役に当てた。この両君の道中賄方に、若殿の家来として仕えていた久太郎他が拔擢されたのである。江戸から京都までの二十一日間を久太郎が詳細に記述した「日記帳」と「賄い帳」を読むと、彼は領民でありながら士分が身に付ける心得や教養が備わった人材だったようで、その活躍ぶりが目に浮かぶようだった。大役を果たした功勞に対しては領主から褒賞を頂き、さらに戸室村にも恩恵を与えるとの御主意があった（「霜島家文書」）。彼はその後親の跡を継いで名主となり明治の幕が開けた。（ホ）

小納戸…將軍の側に仕え、周辺の雑務を担当。

賄方…食事の管理・出納等を担当。

古文書入門（十六）

かなを読む（第一回）

古文書を読み始めると驚くことが色々ありますが、「かな」が読めない、というのもその一つです。現在のひらがなは一つの音に対して一つの字母（もとになる漢字）があてられている（一音一字）。例えば「あ」の字母は「安」、「い」の字母は「以」だけです。「安」を崩すと《あ》のように、**《あああ》**のように、「以」を崩すと《いはいい》のようになります。字母は様々なくずし字で書かれているので、「安」が崩されたものはどれでも「あ」、「以」が崩されたものはどれでも「い」と読みます。これらは現在のひらがなから字母を推測しやすいので、どうにか読めます。しかし、字母が一音一字となったのは明治三十三年で、それ以前は一つの音に対して多くの字母がありました。例えば「あ」には「安」以外に「阿・愛」などがあり、「い」には「以」以外に「伊・意」などの字母もありました。つまり「阿」を崩した《あ》を「あ」、「伊」を崩した《い》を「い」と読めない、古文書が読めないのです。くずし字を見て字母が何かを見つけたことが重要になります。現在のひらがなの字母以外の字母を使ったりひらがなや、現在のひらがなと字母は同じでも崩し方が異なるひらがなのことを変体がなといいます。変体がなの字母は一音につ

き数個、多いものでは十個以上もあり、一度にすべてを覚えることは難しいので、出てくるたびに覚えて、読める字を増やしていきます。読める変体が増えしていくと、古文書が読めるようになり、読むことがますます楽しくなります。

それでは江戸時代の看板の字を読んでみましょう。（厚木市郷土資料館『商家と看板』より抜粋・改変）

(1) **かしわ餅** (2) **かき餅**

(1)は「かしわ餅」。三字目は「王」（「わ」の字母）で《王》と崩されます。
(2)は「かたくり」。「加多久里」です。「多」は《多》と崩されます。
読めたでしょうか。次回は、実際に文章の中で使われている変体が見ていきます。

古文書を読もう

第11巻2号通巻34号

発行日 令和7年9月23日

発行 厚木市

編集 厚木市郷土博物館

住所 厚木市古文書解説会

電話 〇四六―二二五―二二五